

---

# ある赤服の終わり

雉一銀悟

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある赤服の終わり

### 【Nコード】

N7900F

### 【作者名】

雉一銀悟

### 【あらすじ】

クリスマスイヴ、妹に拉致られた俺は、バールのようなものに怯えながらも学校の屋上でスリリングな会話を展開する。そんなハードボイルド小説。

「サンタがいるかいけないか、本気で試してみようよ」  
と妹が言った。どういう意味だと尋ねると、いいから後ろ向いて  
と言われたので素直に従ったたらバールのようなもので殴られた。  
それはバールのようではあったが、バールみたいな生やさしいもの  
じゃなかった。  
「やだなお兄ちゃん、早く気を失ってよ」もう一度頭を殴られた。  
死ぬかと思う暇もなく俺は死んだ。

と思ったら生きていた。ここは 何処だ？ 寒い。雪が降って  
いる。屋上だ、学校の屋上、懐かしい。崖下がいかに見えるジャングルジ  
ムから察するにここは小学校だろう。

立とうと思つて、立てなかった。足に力が入らない。なんか全身  
がダルい。これ結構な重症だと思ふんだがどうだろう妹よ。病院に  
連れていってほくれないだろうか。

「ダメだよ。お兄ちゃん、目を離したらサンタさんになっちゃうで  
しょ？」

「どういう意味だ？」

「去年私の部屋にキティーちゃんの人形置いたの、あれお兄ちゃん  
だよ。私ずっと起きてたんだよ」

「バカ言え、お兄ちゃんがどうやってデパートでキティーちゃんを  
買うというんだ。恥ずかしくてできるわけがないだろう」

なんとかして機嫌を損ねぬよう理屈で言い負かそうとしたのだが、  
妹は残酷にも首を振った。

「うっん、コンビニでエツチな本だつて買えるお兄ちゃんが、恥ず  
かしがるわけないよ」

「なぜ、なぜそれを知っている！」

「同じクラスの有紀ちゃんが見てたんだつて。どうしてくれるの？」

私のほうこそ恥ずかしくて学校行けないよ」「ぐりぐり踏むな、お願いだから腹はやめろ。」

「お前もエッチなんだろって、クラス中のみんなに言われてさ、どうするの？ どうしてくれるの？」

「認めてしまえ。楽になれるぜ ああ、やめろ。下腹部はやめろ」「だからね、私、サンタさんにサブマシンガンをお願いしたの。で、本当にくれたらあいつらみーんな撃ち殺して、くれなかったらこのまま飛び降りて死のうと思うんだ」

妹はバンザイをしながらそう言った。やめてくれ。俺の方こそうんざりだ。ハンスアップ、ギブアップ、どうでもいいから病院に連れてけこの低脳妹が！

と逆切れしそうになったところで自制。というか恐怖心。妹の手にはまたバールのようなものが握られている。よくあれで殴られて死ななかつたなと自分を褒めてあげたい。

死にたくないから機嫌を取ろう。

「いいか妹よ。やけになつてはいけない。この件に関しては全面的にお兄ちゃんが悪い。それは認める。ごめんなさい。だがちょっと待つてほしいんだ。お前だって本当は解ってるんだろう？ サンタなんかいないって」

「……サンタが来なかつたら、死ぬ」

「待て待て落ちつけ。なら真相を話してやろう。本当のことを教えてやるよ。お兄ちゃんは本当にサンタなんだ」

「わかつてないのね」妹は冷たく言い放つ。

「お兄ちゃんがサンタだなんて、あり得ないわ。コンビニでエッチな本を買うような人間がサンタになれるわけがないのよ」

「待て待て。確かにお兄ちゃんはエッチかもしれないが、それでも子供に夢を与えることはできるんだぞ」

「なら私に夢を与えてみてよ。ただし、その薄汚れた手でまたキティちゃん人形なんか渡したら どうなるか解ってるよね、お兄ちゃん？」

妹がバールのようなものを振りかぶる。  
やれやれ、仕方ない。子供の前で変身するのはルール違反なんだがな。

俺は覚悟を決めてふらつきながらも立ち上がった。変身する。「赤服よ、来い！」異次元ゲートを使って家のクローゼットから赤服を召喚。手早く着替える。残念ながらきらきら光って裸になる演出はない。寒いからな。

「お、お兄ちゃん、本当にサンタだったの？」

「そうとも。俺はお前のためのサンタクローズだ」

着替え終わるといい感じにトナカイが飛んできた。ちゃんとブーツも持つてる。こいつは本当に使える相棒だ。

「妹よ、お前が本当に欲しいものはサブマシンガンなんかじゃない。これだ！」

俺はトナカイがくわえてきた袋から次々といろんなものを取り出した。クラスメイトの有紀ちゃんのお兄さんが自分を慰めている証、挿写真、利樹くんのお姉さんが書いているポエム、真央ちゃん自身がこっそり描いているへたっぴな少女マンガ。そういった他人の弱みの数々だ。

「次にいじめられそうになったらこれを見せつけてやりなさい」

「うわぁ、ありがとう。これであいつらに仕返しができるよ。お兄ちゃん大好き！」

抱きついてくる妹をよしよししながら俺は考える。

サンタは子供の欲しいものを与えるだけの存在。一種の使い魔だ。使う子供によって天使にもなれば悪魔にも変わる。

妹よ、お前はこの一年ですっかり大人になっちまったんだな。

今年でサンタは廃業だ。でも勘違いしないでほしいのは、サンタは確かにいるってことと、俺はお前をずっと愛してるってことだ。だから早く病院に連れて行ってほしい。頼むから早く、病院に連れて行ってほしいんだ。

(後書き)

ごめんなさい。やっぱりぜんぜんハードボイルドじゃないです。もう一つのクリスマスネタ小説とどっちが人気出るかなと少し興味がわいたので同時投稿しました。もうクリスマス終わったのにか、そんなこと気にしてるうちはハードボイルドにやなれんぜ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7900f/>

---

ある赤服の終わり

2010年11月25日02時43分発行